アセスメント技術を高めるために

～ケースマネジメントのためのアセスメント研修～

＊当財団（講座）は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、（公財）日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会（ワークショップ）」の承認を受けております。＜承認期間：2022 年 7 月 2 日～2027 年 7 月 1 日 承認番号：20210392＞

期　　日：2025 年 8 月 2 日（土）

受講対象：医療・保健・福祉の領域で、治療・教育・相談・指導等に携わっている専門家の方々、ならびに大学生・大学院生など本テーマに関心のある方

定　　員：60 名（定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。）

受 講 料：8,500 円（税込み）　　＊昼食は各自おとりください

会　　場：明治安田こころの健康財団　講義室　　TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田３－１９－１０　　※詳細地図は受講証に添付いたします

ＪＲ山手線、西武新宿線、東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約７分

■■■ ご企画・講義 ■■■

大正大学　名誉教授　　近藤　直司　先生

まず、医療・保健・福祉領域のアセスメントを、『一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ち mechanism を構成し（まとめ上げ）、支援課題を抽出すること、あるいは、その人（たち）がどんな人（たち）で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること』と定義しておきたいと思います。アセスメントの技術を高めるためには、情報の収集と整理（インテイク）－評価（アセスメント）－支援計画（プランニング）という3つの作業過程を意識すること、とりわけ「情報」と「評価（アセスメント）」の違いを明確に意識することが決定的に重要です。また、『生物－心理－社会モデル』を理解し、使いこなすことによって、包括的でバランスのよいアセスメント技術が身に付くと思います。

本講座では、アセスメントの力量を高めるために取り組むべき課題として、とくに「日常業務におけるケースレポートの方法」を重視し、講義に加えて、自分がケースをレポートする、他の人のレポートを聴くというグループワークによって構成します。また、各機関・職種の役割を明確にできるようなネットワーク型のケース検討会議を成功させる技術についても取り上げます。

守秘性には充分に配慮しますので、ケースをレポートできる方に受講していただきたいと思います。医療、保健、福祉、心理などの専門職で、アセスメント技術に問題意識を感じている方、ケース検討会議の進め方に迷っている方、後進の指導やチームのレベルアップについて考えている方などにお勧めしたいと思います。

【 企画講師　近藤 直司 】

＜参考図書＞

「アセスメント技術を高めるハンドブック第3版」（近藤 直司 著）明石書店 2022

「青年のひきこもり・その後―包括的アセスメントと支援の方法論」（近藤 直司 著）岩崎学術出版社 2017

★事務局から★

受講申込みの方には予め課題をお送りいたします。予習していただいたことを通して、具体的なアセスメントへの理解を深め、持ち帰ってそれぞれの現場で使っていけるようにしていただきたいと思います。
アセスメント力アップのための具体的なアドバイスを直接いただくチャンスです。ぜひご参加ください。

プログラム	時　間	テ ー マ
	10：00～10：40	＜講 義＞ 生物・心理・社会モデルとフォーマット作成の留意条項
	10：40～11：10	《個人ワーク》 フォーマットの修正
	11：10～12：00	《グループワーク》 アイスブレイク、5分レポート（前半３セッション）
	12：00～13：00	昼食 （各自おとりください）
	13：00～13：45	《グループワーク》 5分レポート（後半３セッション）と振り返り
	13：45～14：15	質疑応答・意見交換
	14：30～15：00	＜講 義＞ ケース検討会議の進め方
	15：00～16：00	《グループワーク》 ケース検討会議
	16：15～16：30	《グループワーク》 ケース検討会議の振り返り
	16：30～17：00	質疑応答・意見交換・アンケート

＊カリキュラム・休憩時間等が変更になる場合があります。